

## 学校事務実践講座 「子どもの就学保障を考える」

2月に、学校事務実践講座をオンラインで開催しました。本実践講座は、学校事務職員のより積極的な学校運営への参画をめざす中で、学校事務職員の「研修」のひとつとして企画・実施しています。これまで学校行財政部会がすすめてきた研究テーマ「子どもの就学保障を考える」のレポート報告をもとに、生まれ育った環境から生じる教育格差をなくし、子どもが等しく学べる教育環境を整備するために、学校事務職員として教職員やさまざまな関係機関と協力・協働しながら、教育の機会均等について考えることを目的としておこないました。

新型コロナウイルス感染症の流行によって、家庭の経済状況や自治体の財政状況にも影響が及び、憲法等が保障する、「すべての子どもが等しく教育を受ける権利」が保障されていない状態にあると言えます。これらの実態から、「子どもにお金の影響を受けさせない学校づくり」をすすめるために、学校財務領域の視点でどのようなアプローチができるのかを考えていく必要性について提起しました。

近年、「子どもの貧困」という言葉が聞かれるようになりましたが、現在の学校では、貧困の定義や特徴が広く周知されていない状況にあり、わたしたちの身近にある貧困に気づくことができていません。また貧困以外にも、子どもを取り巻く教育環境に潜んでいる格差はさまざまなものがあります。それぞれの課題に対するアプローチのヒントとなり、子どもの就学保障を考え、課題解決につながる契機となつてほしいというこのレポートに込められた「思い」を参加者と共有することができました。

後半のグループワークでは、レポートの報告をもとに、感想・意見交流をおこないました。短時間でしたが、「事務職員として保護者負担軽減についての関わり方等について、意見交換ができてよかった」などの感想がありました。

今回の実践講座を契機として、すべての教職員がそれぞれの職種の専門性を生かしながら、協力・協働のもと、子どもの就学保障を考え、等しく学べる教育環境整備のとりくみをさらにすすめていく必要があります。今後、各地域組合・分会においても市町教育予算学習会等と連携し、本レポート内容を周知するとともに、学習を深めていくとりくみをお願いします。

### ※参加者アンケートより※

「標準職務の中に教育課程に関する分野が入っているので、授業の様子、ICTの活用などの現状を知って、日頃の事務に生かしたいと思っていたが、レポートを読んでさらに意欲が高まった」  
「事務職員の視点から改善していけることは数多くあると思う。教職員・地域組合などと協力してとりくんでいきたい」

『子どもの就学保障を考える』のレポートは各地域組合・分会・事務職員部員へ配布します。また、兵教組 HP(組合員専用ページ)にも掲載していますので、ご覧ください。【ID・パスワードは各地域組合へお問い合わせください】

